

立命館 災害復興支援室 版瓦

かわらばん

【第32号】2017年2月21日発行

【告知】

★参加無料・事前申込不要。

■3.11追悼企画「いのちのつどい」



東日本大震災発生から6年が経とうとしています。災害復興支援室では、「3.11追悼企画いのちのつどい」と題して、震災で犠牲となった方々を追悼する式典を行なうとともに、シンポジウムや学生

活動報告会、大人から子どもまで楽しめる参加型の企画など、多彩な催しを行ないます。ぜひ、足をお運びください。
 [日時]2017年3月11日(土) 13:00~17:00(受付12:30より)
 [場所]立命館大学国際平和ミュージアム 中野記念ホール他
 [プログラム]

- 13:00~13:10 オープニング(アカペラサークルclef演奏)
- 13:10~14:15 シンポジウム

「見えないものに目を向ける大切さを考える」

- <登壇者> 安齋育郎(立命館大学名誉教授)
 久保田崇(立命館大学公務研究科教授)
 塩田 潤(神戸大学大学院生、立命館大学卒業生)
 西崎芽衣(立命館大学産業社会学部学生)

- <コーディネーター>山口洋典(立命館災害復興支援室副室長)
 14:30~15:00 追悼式典(吉田総長追悼メッセージ、モダンジャズバレエ部ダンス 他)

- 15:15~16:50 学生活動報告会

- <発表団体>きっかけ食堂/そよ風届け隊/くまだす+R
 /大船渡市盛町七夕まつりサポートプロジェクト2016
 /防災共育サークル Attelle/KS1熊本をスポーツで1つに
 16:50~17:00 クロージング

【同時開催企画】

- ・親子向け企画(子どもから大人まで、楽しみながら災害や防災について体験的に学べる企画です。)



- ・展示コーナー(学生・生徒による活動紹介、写真展)

- ・古本募金(不要になった書籍《CD・DVD含む》をお持ち寄りいただき、換金し、熊本地震被災学生支援に活用します。)

【関連企画】

- 立命館土曜講座 ★参加無料・事前申込不要

日時:2017年3月4日、18日、25日(土) 14時~16時
 場所:立命館大学衣笠キャンパス 末川記念会館講義室
 テーマ:東北の現在(いま)

~東日本大震災から6年、これまでとこれから~
 ※詳細はHP「立命館土曜講座」にて。

- 交流会「3.11を思いながら美味しいものを食べよう」

日時:2017年3月10日(金) 18時半~20時半
 場所:朱雀キャンパス 1階 生協カフェテリア
 会費:事前申込み1,500円 当日2,000円(学生は500円)

申込み:災害復興支援室メール311fukko@st.ritsumei.ac.jp 宛
 (所属・お名前明記ください。)※食材の準備のため、3月3日までにご連絡いただきますようご協力お願い致します。

※教職員組合の参加費補助の対象になります。組合員の方は会場でお渡しするチケットを後日組合にご提出ください。

- 写真展

「福島県浪江町の現状」を伝える写真、ポスター「ならば、31人の『生』の物語」の展示を通し「福島の現在」を伝えます。



写真は、共催者であるNALC京都「ことの会」の会員が撮影したものです。ポスターは、後方支援便の学生たちが福島県楢葉町に関わる様々な人に取材し作り上げたものです。

この写真展は、昨年11月の大阪いばらきキャンパスを皮切りに、3月に開催する「いのちのつどい」に向け、各キャンパスをキャラバン展開していきます。

- ★大阪いばらきキャンパス(B棟2F OICライブラリー)
2016年11月15日(火)~28日(月)・・・終了しました。
- ★びわこ・くさつキャンパス(セントラルアーク表現のジャングル)
2017年1月12日(水)~19日(木)・・・終了しました。
- ★朱雀キャンパス(1階ロビー)
2017年2月1日(水)~19日(日)・・・終了しました。
- ★国際平和ミュージアム(1階ロビー)
2017年3月1日(水)~14日(火)

- 「いのちのつどい」の詳細は支援室のHPに順次掲載します。

■2016年度夏期休暇 復興支援活動ボランティア 旅費支援について(報告)



2016年8月から9月にかけて、復興支援活動に参加した本

学学生を対象に、活動にかかる旅費の一部を支援しました。

福島県、宮城県仙台市、気仙沼市、岩手県、熊本県を活動地域として、29名の旅費を支援しました。活動の様子は、写真やコメントで、各自がSNSに投稿して共有しました。(ここに掲載した写真の一部は学生が撮影したものです。)

10月6日(木)の事後報告会には、旅費支援対象者のほか、同じく夏休み期間、ボランティア活動や復興インターンに参加した学生なども参加し、有意義な時間を過ごしました。



▼事後報告会。巨大な日本地図に各々活動場所に付箋を貼る。こんなに様々な活動をした人がいるんだなあ、と、実感。活動発表は、インタビュー形式で。



▼グループワーク。写真を用いながら活動の詳細や、活動で感じたことなどを共有した。その後、5つのテーマについて、それぞれの考えや学びを深めた。

参加者の声

※印象に残っていることは、(1)被災地の目に見えるものの復興のスピード(2)目に見えない心の復興のスピードの二つ。(2)は、対話を通して、たくさんの言葉を聞いた。故郷に愛着を持ってない気持ち、今だに東京電力への不満が尽きない原発被災者、お金では解決できない問題が山ほどあると感じた。

(「まるっとふくしまプロジェクト」参加学生)

※熊本の報道は今ではほとんど見かけなくなったが、人手不足や震災当時のままの現場等、課題は目に見えるだけでも多くあった。小さくても自分にできることをひとつひとつ積み重ねていくことが大切だと感じた。

(「九州ふっこう割」で熊本へボランティアに行こう!参加学生)

※5年前のことをすぐこの前のことのように目を潤ませて話す語り部さんの姿が印象的だった。ニュースで流れる「〇名死亡」という言葉を聞いても感じることは少ないが、実際に被災された方から、知人が亡くなった話を聞くと、もし自分がその立場だったらと想像して心苦しかった。この気持ちを感じたことだけでも被災地に行くことの意味を感じた。

(「石巻市牡鹿半島プロジェクト」参加学生)

旅費支援は、岩手県大船渡市で毎年12月に行なわれるプロジェクト「サンタが町にやってくる!」に参加する学生に対しても、実施しました。



また、春期(2月~3月)の旅費支援を実施中です。

■2016年度学園祭に出店 食べて応援fukko+R屋台村 盛況でした!

「2016年度立命館大学学園祭」が10月30日(日)に立命館大学びわこ・くさつキャンパスで開催されました。災害復興支援室は、「食べて応援fukko+R屋台村~東北も熊本も忘れられねえよ!~」をテーマに、東日本大震災や平成28年熊本地震の支援活動をしている学生、福島県広報課の方と一緒に、模擬店と展示企画で参加しました。

・熊本県西原村産
スティックポテト
〔くまだす+R〕

・さんまの塩焼き
〔大船渡のさんま四郎〕
・檜葉町の郷土料理「マミーすいとん」
〔学園祭で檜葉を盛り上げ隊〕



展示ブース・個別展示エリアでは、支援室や学生の展示のほか、福島県広報課も参加し、アニメ「みらいへの手紙」の上映、福島県産のお米「天のつば」の試食などなど、盛りだくさんな内容でした。

参加者の声

※お客さんが熊本産の芋や油にすごく興味を持ってくれたこと、子供たちがおいしかったと言ってくれたことが嬉しかった。熊本のよさが伝わったと思う。

(「くまだす+R」参加学生)

※31人の物語の展示を見て、「“ふるさと”や“また”という言葉が目につきますね。」と感想を下された方がいた。丁寧に細部まで読み、私たちの作品を通して、檜葉のことを知ってくださったという喜びが大きかった。

(「学園祭で檜葉を盛り上げ隊」参加学生)



事務局だより

【ご協力のお礼とお願い】

■復興+R基金 被災学生支援金 1500万円集まる 達成率69%

熊本地震で被災した学生に対する「復興+R基金 被災学生支援金」への寄付として、2017年1月末現在、242人の皆さまより5年間にわたり、¥15,188,641のお申込みをいただきました。

ご協力誠にありがとうございました。今後も目標2200万円達成を目指し、継続して寄付を呼びかけていく予定です。引き続きご支援のほどよろしくお願い致します。

お寄せ頂いた寄付を元に、3月下旬から立命館大学・立命館アジア太平洋大学で支給を希望する学生の募集・審査を開始し、本格的に取り組んでいきます。

(1)寄付金使途 立命館大学、立命館アジア太平洋大学に在学する被災学生の経済的支援
(月額5万円支給 対象約20名)

(2)申込方法 災害復興支援室までお問い合わせください。

【連絡先】

Mail: 311fukko@st.ritsumei.ac.jp
TEL: 075-813-8282

編集後記

今年も恒例の「3.11いのちのつどい」を開催します。今号では、その告知をさせていただきました。2017年3月11日は土曜日です。ご家族、ご友人とお誘い合わせの上、是非ご来場くださいませ。紙面の都合で、掲載しきれなかった情報は、災害復興支援室のホームページやfacebookに掲載していますので、そちらの方もどうぞご覧ください。

立命館では東日本大震災発生後、被災地域の大学からの支援要請など、緊急的・総合的に判断・対応が必要なものや、学生のボランティア活動、支援に関わる教員の教育・研究活動へのサポートなど、学内外の情報を整理し具体化していく必要性があると判断し、2011年4月21日に、「立命館災害復興支援室」を設置しました。<公式 web <http://www.ritsumei.ac.jp/fukkor/>>

■APU学生および 附属校児童・生徒主体の 災害復興支援活動

立命館災害復興支援室では復興+R基金を活用し、APU学生および附属校の生徒を主体とした災害復興支援活動を経費面でサポートする提案応募型の活動支援プログラムを実施しています。

今年度は、5件の応募があり、立命館宇治高校、立命館高校の2校から活動報告書が届きました。

【立命館宇治高校からの報告】

震災と原発事故から5年9ヶ月の フクシマの今を学ぶ

～忘れねえべ フクシマのこと～

2016年12月16日(金)から18日(日)の2泊3日、立命館宇治高校の生徒10名が福島県を訪れました。これは「メディアによって伝えられる情報にはあくまでも限界がある」ので、「今回の訪問を通して、現地の方々との対話を軸に様々なフクシマの現状を知り、伝えていくこと」を目的としての活動です。



立命館宇治中学校・高等学校のホームページに、活動の詳細な内容と生徒の感想などが掲載されています。高校生のピュアな感性で見聞きした今の「フクシマ」が、そこに示されています。
<https://www.ujc.ritsumeit.ac.jp/ujc/news/detail.php?eid=02444>

【立命館高校からの報告】

東日本津波原発事故震災 石巻・福島ボランティア研修

2016年8月9日(火)から12日(金)の3泊4日、立命館高校の生徒9名が宮城県石巻市、福島県田村市、郡山市を訪れました。これは「東日本大震災の記憶を引き継いでいくこと」、「感じたことを自分たちの生活に置き換え」、「防災・減災対策への行動に繋げていくこと」を目的とした活動です。



石巻の「コスモスの家」に集まった子供たちに向けて「お楽しみ会」を開き、宝探しをしたり、ゼリーや昼食を作ったり、大縄跳びをしたりしました。その後、宮

城や福島を視察し、地元の人たちから震災当時の話を聞きました。

参加者の声

＊この研修を通して改めて感じたのは、行動することは大切であるが、大変難しいことであるということだ。私たちが先導することで、新たに先導する人が増えるかもしれない。復興へ向けてまずは自分から行動していきたい。(高校1年生)

＊山の木々が枯れていてなんでだろうと思っていたら、それは津波がきて海水によって枯れてしまったと聞き、こんなところまで津波が押し寄せてきたことに衝撃を受けました。テレビで「津波が〇mきました。」と言われても今まで実感が湧かなかったのですが実際に「この電柱やこの建物のここまで来た」と聞き、言葉になりませんでした。(高校1年生)

■経済学部3回生ら 「大船渡ビジネスプラン コンテスト2016」で受賞！

立命館大学が包括連携協定を結んでいる岩手県大船渡市主催の「大船渡ビジネスプランコンテスト2016」で、経済学部3回生の真野委純さんらのグループが、ドリーム部門(学生の部)の優秀賞を受賞しました。

タイトルは「大船渡ツーリズム～訪日留学生に滞在型観光ツアーの販売と運営～」。

語学学校に通う外国人留学生に、大船渡の漁業をはじめとした地域文化と関連の深い人の家に泊まるツアープランを販売するビジネスで、共に仕事をし、夕飯を作り食べ、お酒を飲んで語り、その家の人々の生活をそのまま体験するというもの。



■学生ボランティアサークル そよ風届け隊

「ならはかわら版」創刊

福島県の楢葉町を中心に活動している「そよ風届け隊」が「ならはかわら版」を企画、創刊。地元の有志と協働の手作り感あふれる温かい新聞です。隔月刊。様々な想いをのせながら、続いてほしいものです。

ならはかわら版 創刊号・第2号▲

【創刊号内容】・楢葉対談

「この町で命に向き合うということ」

木戸川漁協 鮭孵化場長×和牛繁殖農家・ありがとうの言葉

感謝の気持ちを伝えたかった人に「ならはかわら版」紙上で「ありがとう」

を伝えるコーナー 他
※詳細は「そよ風届け隊」FBにて。

■【学生企画の紹介】 1週間をかけて東北のことを 考えてみる「東北ウィーク」実施

11/8(火)～11/11(金)の4日間、「『5年目の想いを届けたい。』～想いを聞く場。届ける場。東北ウィーク～」と題し、東日本大震災当時のように、東北の学生と関西の学生が交わる機会を作りたいと、学生が企画、実施しました。Skype会議、あがりいん食堂、語り部、きっかけ食堂など、多彩なコンテンツを用意。「食」を通じて知らない人とも交わり、東北について考える、そんな堅苦しくない空間を持つという試みでした。結果は盛況で、様々な思いを胸に多くの人たちの参加がありました。

当日参加した大阪市の中学校教諭から「ぜひ私の中学校でも」と声をかけられたのをきっかけに、1月末に「たらこつくり！」という企画が実現したことも成果でした。支援室FBでも紹介しました。

■オール立命館校友大会で 募金の呼びかけ

2016年10月29日(土)行なわれた「オール立命館校友大会2016 in 金沢」の総会・懇親会の席で募金を呼びかけたところ、参加者から72,517円集まりました。集まった募金は、復興+R基金(被災学生支援金)として活用させていただきます。ご協力ありがとうございました。

■食べて支援 立命館生活協同組合の 募金メニューが大好評！



2016年10月から12月にかけて毎月1週間、「わたしたちにできること きもちをとどけよう」をキャッチフレーズに、立命館生活協同組合が募金メニューを実施しました。

この募金メニューは、立命館の学生で、学業継続の困難に直面している在学学生を応援するために企画され、1食あたり10円が被災学生の支援募金となるもの。

「ハンバーグ&海老フライ」など、毎月替わりで人気のメニューが工夫されており、3回の合計利用数が2万1418食と、大好評を博しました。売り上げの中から21万4180円を、復興+R基金(被災学生支援金)へご寄付いただきました。

また、併せて生協職員の皆さまから、同趣旨で23万円のご寄付をいただきました。ご協力いただきました皆さま、心より御礼申し上げます。



学校法人立命館 災害復興支援の取り組み

災害復興支援室の設置

学校法人立命館では、東日本大震災における対外的な支援要請の窓口や、学生・教職員の支援活動をサポートすることを目的に、2011年4月21日に「災害復興支援室」を設置しました。

活動内容

◎学内外の情報のとりまとめ

- (1) 立命館としての災害発生時の支援の方針づくり
- (2) 立命館の教育・研究の到達点を踏まえた支援のための学内資源の把握
- (3) 学生・生徒・児童、教職員からの災害支援に向けた提言のとりまとめ
- (4) 関連機関・自治体、他大学の取り組み状況や本学への支援要請の把握

◎対外的支援要請の窓口、学生・教職員の支援活動のサポート

- (1) 他大学など外部からの支援要請への対応
- (2) 学生・教職員による「東日本大震災」「平成28年熊本地震」復興支援活動のサポート
 - ・Web上における学内外への情報提供や交流サイトの構築
 - ・現地状況を共有する学習会・意見交換会の開催
- (3) 支援活動につながる研究活動に対する支援
- (4) 立命館としての復興・支援活動の検討とその支援



復興+R基金の設置

震災により影響を受けた本学在学学生が、引き続き学ぶことができるよう経済的な支援を行うとともに、災害に強い社会の構築への寄与を目的に立命館災害復興支援基金（復興+R基金）を設立しました。基金財源は学園内の教職員、校友、父母などの関係者のほか、立命館教職員組合連合、立命館生活協同組合からも寄付・協力を得ています。



復興+R基金の構成

■立命館の学費減免・奨学金の展開

立命館大学では復興+R基金による「被災学生支援金」の他多彩な奨学金・災害見舞金による支援を展開しています。

- 非常災害による修学困難者に対する立命館大学学費減免
- 立命館大学父母教育後援会修学援助奨学金*
- 立命館大学父母教育後援会家計急変奨学金（災害対応枠）*
- 立命館父母教育後援会災害見舞金*（*）学部生を対象とする

連携・支援拠点の設置

岩手県内をはじめ、東北3県と熊本県の拠点において、復興支援につながる教育研究による取り組みを展開しています。

